

私立大学研究ブランディング事業 令和2年度の進捗状況

学校法人番号	041005	学校法人名	朴沢学園
大学名	仙台大学		
事業名	プロ球団とのアカデミックパートナーシップに基づく地域創生型スポーツ社会モデル形成事業		
申請タイプ	タイプA	支援期間	平成30年度～ 令和2年度
参画組織	体育学部体育学科、運動栄養学科、スポーツ情報マスメディア学科、スポーツ健康科学研究実践機構		
事業概要	スポーツ文化の活性化による地域の振興は地域創生の一つの課題である。体育スポーツ系大学である本学は、そのスポーツ科学的研究ノウハウを活用し仙台に進出したプロ3球団の事業活動を「する・みる・ささえるスポーツ」の3側面に着目して研究分析しスポーツの振興を通じた地域社会の活性化効果を解明する。それをベースに地域創生型スポーツ社会モデルを提示し地域での活用方策の導入展開を図る。		
①事業目的	本事業では、スポーツ文化のもつ3つの側面、「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」に着目し、仙台市に進出したプロ3球団の事業活動を研究対象として設定し、体育スポーツ系大学である本学の研究ノウハウを活用し、地域社会の活性化に果たすプロ球団の齎すスポーツ文化の展開について、スポーツ科学的視点を踏まえた社会活性化効果の解明とその解明結果の地域での活用、それを通じてスポーツを核とした地域社会の活性化を狙いとする。ことを事業目的とする。		
②令和2年度の実施目標及び実施計画	<p>実施目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツ球団との共同プロモーションの継続実施 ・モデル地域へのスポーツノウハウの導入と実践検証 <p>実施計画</p> <p>(1)プロ球団との共同プロモーションの継続的实施 前年度実施プログラムの効果測定に基づき、効果的なプログラムの実施拡大を行う。</p> <p>(2)共同研究の成果を自治体に促進し、それによる地域への影響、効果の実践検証を行う。地域におけるスポーツ大会の開催運営、自治体が主体となったスポーツ教室開催の推進、プロスポーツ球団との地域密着活動・ホームタウン活動の共同展開、等。</p> <p>(3)共同研究の進捗状況に関しては「仙台大学紀要」への投稿を行う。</p>		
③令和2年度の事業成果	<p>今年度は、コロナ禍に関する非常事態宣言の発布等により、対外発信面で外部者との対面交流の不能その他、対面的実践を主体とする本事業活動そのものが大きな制約を受け、実施予定内容の大幅な変更・縮小を余儀なくされた。そこで、年度当初のコロナ感染防止対策への集中という大学運営方針を踏まえ、前年度からの継続事業を主体に、コロナ禍克服後の事業継続・拡大を念頭に置いた対応を図った。そのなかで、厳しい経営環境を凌ぎつつ、事業を協働するプロ3球団側の厳しい感染予防コントロールなどの配慮による対面交流を含め、継続事業を推進できたことには、球団側に感謝の意を表する次第である。</p> <p>本事業で取り組む研究テーマのうちアスレティックトレーニング(AT)、ストレングス&コンディショニング(S&C)および栄養管理等の横断的な情報を組み合わせる情報を共有するコンディション管理用アプリケーション(ONE TAP SPORTS)を活用し推進している競技力向上サポート研究については、今年度は、AT分野に絞り込み仙台89ersの選手を対象として2020年-2021年シーズンの調査を実施した。ONE TAP SPORTSを利用し選手のコンディショニングを数値化・可視化することにより傷害リスクの予測ができることを明らかにするとともに、選手の情報をコーチやS&C、ATなど様々な立場の人が確認できることから複合的なサポートを可能とすることが確認できた。</p> <p>また、「支える」機能のうちスポーツ栄養分野では、本学運動栄養学科を卒業し管理栄養士資格を取得した本学職員2名がプロ球団に派遣され、公認チームスタッフとしてトッププロ選手等への栄養管理・栄養指導等を担った。</p> <p>さらに、学生教育としての対面交流に関しては、規模は縮小したが、本年度もプロスポーツ球団の現場を活用した職場体験やインターンシップを実施し、トッププロスポーツの現場を具体的に知る機会を得ている。人生設計科目・キャリアプランニングⅡ(必修科目)を開講し、3日間のインターンシップ実習(職場体験学習)の機会を通じて、プロスポーツ現場の体験学習を行った(楽天:10名、ベガルタ:13名、89ERS:38名)。キャリアプランニングⅡでインターンシップに参加した学生で特に意欲のある学生は、発展型インターンシップ(教育課程外)にも参加した(コーチング関連:2名 AT関連:1名 S&C関連:3名 情報関連:1名 栄養指導関連:2名)。発展型インターンシップは、5～10日前後の日数で実施している(S&C関連は4週間実施)。</p> <p>なお、コロナ禍対応の遠隔授業として、発展科目「スポーツ情報戦略論(選択必修)」において、東北楽天チーム戦略室長を講師として招聘し、受講生約100名にプロ野球球団に</p>		

	おける分析業務の役割と位置づけやスポーツアナリストの仕事の概要などトッププロスポーツの現場を具体的に知る機会も得た。
④令和2年度の自己点検・評価及び外部評価の結果	(自己点検・評価) 大学全体の運営に関する重要事項を審議する組織である学内調整会議において自己点検・評価を実施した。コロナ禍にあり規模縮小とはなったが、事業継続に繋がる研究活動をすすめられたことは評価できる。コロナ終息後、速やかに自治体への実践検証等を実施できることを予定している。
	(外部評価) コロナ禍の影響で予定していた外部評価作業は実施が困難となるなか、地元自治体やマスコミ関係者等の外部有識者に対して、本事業の目的と本年度の実施状況を説明し、以下の意見を得た。「新型コロナウイルス感染症による研究活動等の遅れはやむ負えないが、今後も継続的に研究を推進し当初の目標が達成できることを期待したい。」
⑤令和2年度の補助金の使用状況	プロ3球団とのアカデミックパートナー契約に伴う委託管理費、コンディション管理用アプリケーション(ONE TAP SPORTS)、映像共有プラットフォーム(hudl)および情報分析用ソフトウェア(スポーツコード)利用料、人件費等